

## PRESS RELEASE

### 2018年 年頭所感

#### 森トラスト株式会社 代表取締役社長 伊達 美和子

昨今、企業の経営戦略が規模の追求から新たな価値の創造へと転換し始めたことに伴い、企業のあるべき姿が変化してきています。また、昨年は訪日外国人旅行者数が過去最高を記録し、日本の観光市場が一層拡大するなど、さまざまな環境の変化により、オフィスやホテルに求められる価値観も変わりつつあります。このような時代の変化に適応するため、新コーポレートスローガン『Create the Future』を策定し、各事業においても新たな戦略を掲げて推進するなど、森トラストとして、新たな一步を踏み出した年になりました。

不動産事業では、新たなオフィス事業戦略『Creative First』を掲げ、2020年の完成に向けて建設中の「東京ワールドゲート」に加え、2024年度完成予定の「(仮称)赤坂二丁目プロジェクト」が始動しました。2020年東京五輪を通過点と捉え、東京の国際競争力強化に資する次世代を見据えたビジネス拠点づくりを推進しています。

ホテル&リゾート事業では、『ラグジュアリー・ディステーション・ネットワーク』の創造を掲げ、日本各地の豊富な魅力をつなぎ、富裕層のニーズを満たす周遊ルートの形成を目指しています。東京の虎ノ門と銀座での「エディション」、沖縄・宮古諸島での「イラフ SUI ラグジュアリーコレクションホテル 沖縄宮古」、さらに沖縄・瀬底島では「ヒルトン・ホテルズ&リゾーツ」と中長期滞在型のタイムシェア・リゾートを運営する「ヒルトン・グランド・バケーションズ」を誘致するなど、立地に合わせた様々なバリエーション展開を行い、日本の観光先進国化に貢献すべく、インバウンド需要の受け皿拡大を進めていきます。

投資事業では、「城山トラストタワー」において、オープンイノベーションサポート機能を充実させたコミュニティスペース「dock-Toranomon」を開業すると同時に、「スタートアップベンチャーエコシステム」の構築、CVC活動の推進、VC出資を3本柱とする新イノベーション投資戦略が始動しました。総額200億円の投資枠を設け、不動産に関連する「Re-Tech<sup>リテック</sup>」や観光・ホテルに関連する「Hospit-Tech<sup>ホスピテック</sup>」を重点投資先とし、森トラストグループのオープンイノベーションを推進しています。

本年は、2020年以降まで見据えた複数のプロジェクトを着実に推進するための『自律・分散・協調』型の組織基盤を整える年となります。各事業を担う、クリエイティブかつ生産性の高い人材育成を目指し、業務環境の整備に一層注力し、プロアクティブな組織の構築を目指してまいります。森トラストグループは、新たなスローガンの下、社会の潜在ニーズを捉え、時代の変化に適応しながら、柔軟な発想とアプローチで新しい未来の創造を目指してまいります。